

可搬式シャフルボード・コート紹介

横浜シャフルボード協会

欧米で使われている可搬式の、ディスクが良く滑って正規のコンクリート製コートと同様なプレーが出来る「プラスチック製組立式コート」と「ビニール製コート」、及びディスクの滑りは少し劣るがプレーを楽しむことが出来る日本レクリエーション協会製「ビニール製コート」を紹介する。

国際大会では、正規のコンクリート製コートの数が少ない開催国は、上記の可搬式コート2種のいずれかを体育館やホールに敷設している。

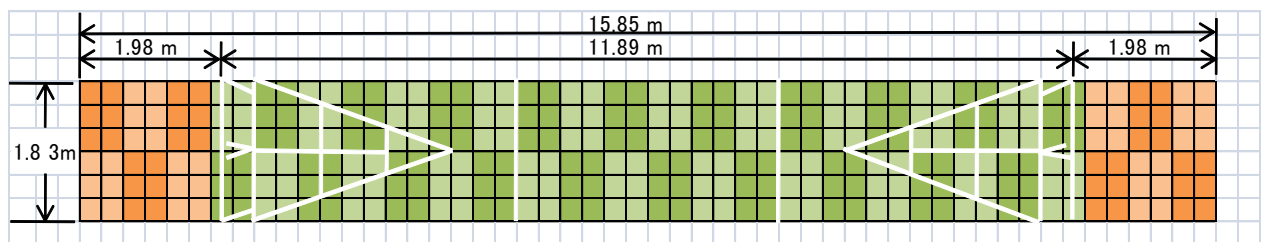
当協会は、平成28年3月解散のNPO法人横浜シャフルボード協会が普及に使った米国製の上記2種の可搬式コートを引き継ぎ、屋内シャフルボードの普及を図っている。NPO法人は、「ビニール製コート」をは2007年2月に購入した。「プラスチック製組立式コート」は2007年4月、横浜市の助成金(3/4助成)で購入して「よこはまスポーツ振興基金助成金事業」として普及活動を行っていた。

1. プラスチック製組立式コート

欧米では、屋内だけでなく、屋外の駐車場や木製デッキの上に敷設している。

(1) コートの構造

30cm正方形タイルを嵌め込み連結して、幅1.83m、長さ15.85mの、正規寸法のシャフルボードコートを組み立てる。長さ15.6mのうち、中間11.89mがプレーエリア、コート両端各1.98mがプレーヤーが立つエリア。コート組立図の四角形1つが1タイル。タイル総数312枚。予めタイル6枚を連結しておくと、組立、解体時間が短く、保管も容易。図の同色タイル6枚が連結1セット。セット総数52。



(2) タイル連結

連結前



連結後



(3) 組立作業

(組立及び解体作業は容易で、作業時間は短い)



(4) 組立てたコート上のプレー



体育館内敷設



既設コンクリート製コート上に仮敷設



屋外敷設 (カナダ)

(5) プラスチック製組立式コート上でディスクが良く滑る理由

タイル1枚の表面に900個の直径1.5mmの小球を設けた特許の構造(写真参照)が、コートとディスク間の摩擦を小さくしている。更に、使用前にディスク底面にシリコン・スプレー、スキー・ワックス等の滑走剤を少量塗布する。



2. ビニール製コート（米国製）

(1) コートの構造

長さ40ft (12.2m)、幅6ft (1.83m)の正規寸法のコート。ビニールの厚さは約 0.8mm、重量は保管用筒を含め約15kg。巻いて保管し、敷設は容易。しなやかで、床に密着する。コート両端を、幅50mmのテープで床に固定する。製品出荷の際、コート表面に水性コート・ワックスを塗布している。

(2) コート敷設（既設コンクリート製コート上に仮敷設した例）



広げる



コート端面をテープで固定

(3) プレー (屋外コンクリート製コート上に、ビニール製コートを仮敷設してテストした例)

プレー開始前、コートに細かいプラスチックビーズを少量散布して、ディスクの滑りを良くする。体育館の場合は、プレー終了後、ビーズを箒で集めて回収し、コート周辺を電気掃除機で掃除する。



3. ビニール製コート(日本レクリエーション協会製)

正規寸法のコート。米国製と違って、ビーズ散布はせず、ディスクの底面にシリコンをスプレーで吹き付ける。2011年11月に日本レクリエーション協会からコートを借用してテストした。ディスクの滑りは、米国製より劣って細かい戦法は使えないが、体育館でプレーを楽しむことは出来る。

4. 米国製2種の可搬式コートを敷設した例



左がビニール製コート、右がプラスチック製組立式コート
(大和市19小学校「教育研究会」先生75名体験プレー)

ビニール製コート設置例
(元YSA落合会員が軽井沢テニスコートに設置)